

大学環境におけるシステム導入の工夫

～セキュアなメールシステムを目指して～

○宇佐美 賢子、谷口 麻梨香、福田 優子

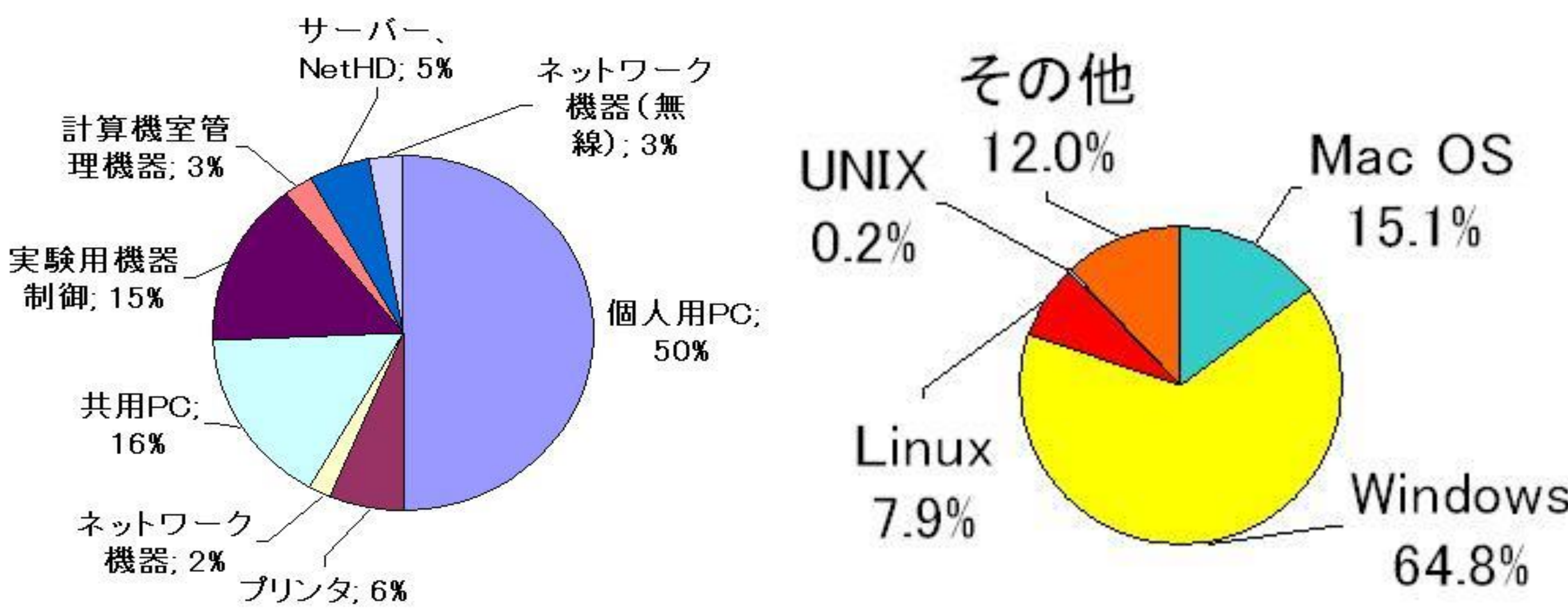
大阪大学 レーザーエネルギー学研究センター 高性能計算機室

【概要】

大阪大学レーザーエネルギー学研究センター(以下、「レーザー研」とする)では、2010年3月にシステム更新を行った。計算機システム、ネットワークシステム、メールシステム等の全てのシステムが対象となるレーザー研にとっては大規模な更新であった。その中でもメールシステムの更新は、セキュリティを強化するために、全ユーザが自身のパソコンのメーラの設定変更をしなければならないなど、ユーザにとっても負担の大きな更新であった。大学では研究目的の利用が主であるため、ユーザの環境は制限しておらずOSおよび、メーラを含むアプリケーションソフトは様々な種類とバージョンが存在し、多様なユーザ環境となっている。ここでは、多様な環境のユーザがいる中で、全ユーザの協力を必要とした、よりセキュアなメールシステム移行の為に工夫した点について紹介する。

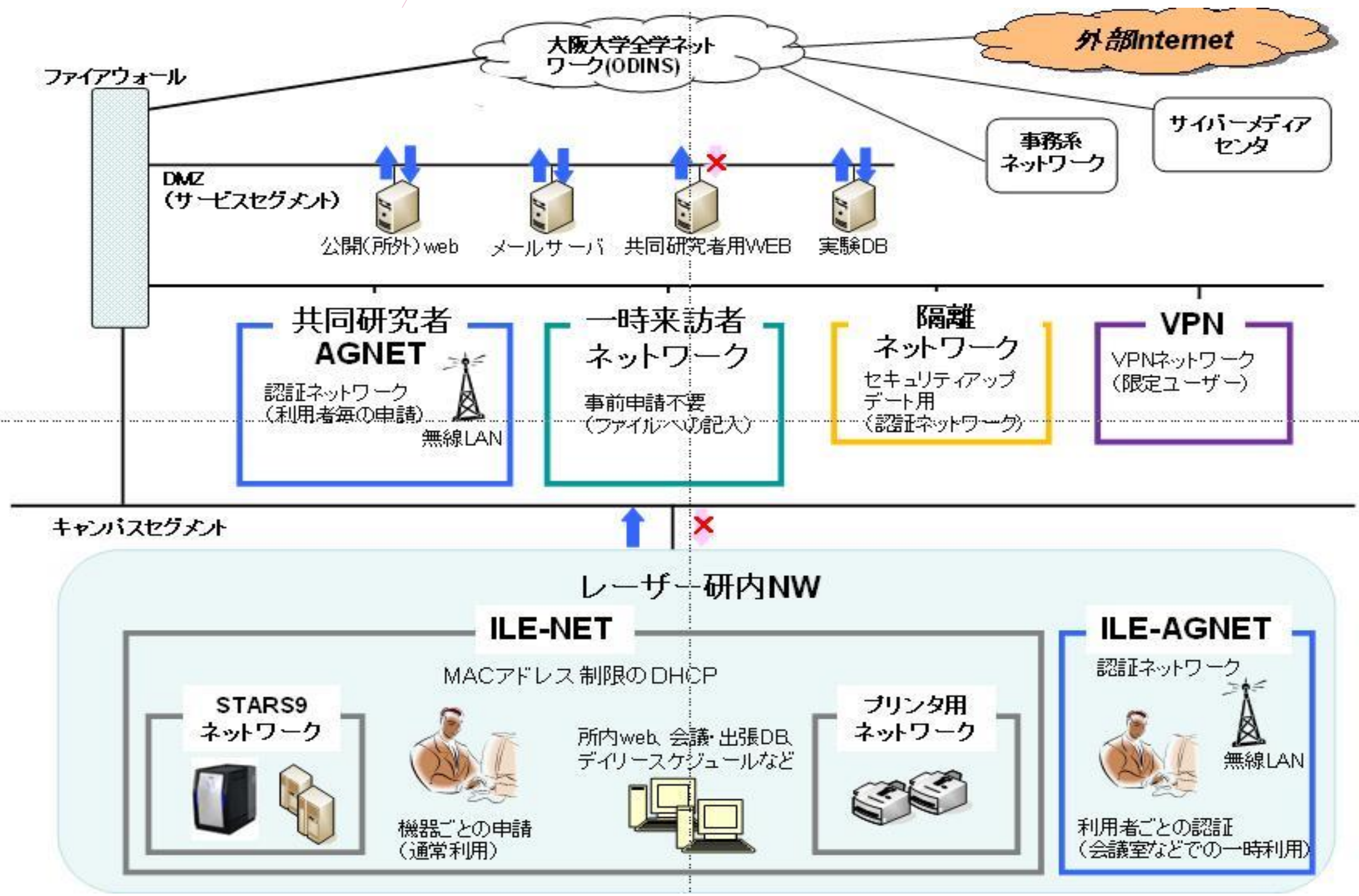
【レーザー研におけるユーザ環境】

教員、職員、学生等、様々な身分の約300名以上が利用。
共同研究者など外部利用者も多数来訪し、ネットワークを随時利用。
申請機器台数 : 1150台程度 (2011年1月現在)



※ソフトウェアも研究の目的により様々なソフトを使用するのが当たり前となっており、実験機器との接続のために、かなり古いバージョンのOSも存在するが、使用制限等はしていない。

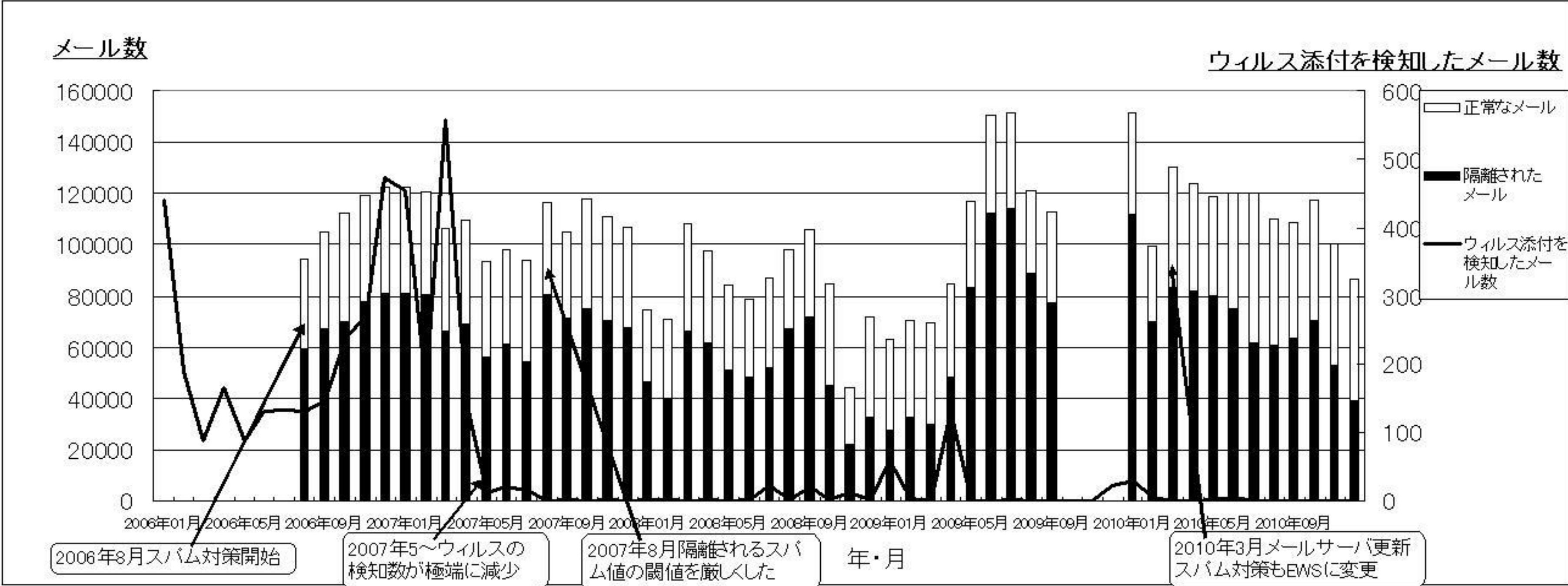
【レーザー研のネットワーク概要図】



【メールサーバの歩み】

年	メールサーバ	メーリングリスト	ウイルスチェック	スパム対策
1989年10月	Bitnet利用開始 (メール、FTP) 情報処理教育センターのIBMのサービス			
1992年2月	メールサーバ立上げ @ile.osaka-u.ac.jp の運用開始	メーリングリスト運用開始		
1998年4月	メールサーバ更新	(1999年5月) fml一部導入 (2001年8月) fmlに全面移行	InterScanVirusWall (トレンドマイクロ) ウイルスチェック開始	
2002年4月	メールサーバ更新 Express5800/110Ea		AntiVirus for Linux (ギザオン)	
2005年1月	メールサーバ更新 Express5800/120Eg	(2005年10月) 全国共同利用に伴い、 メールマガジントップを追加	AntiVirus for Linux (ギザオン)	(2006年8月) スパムメール対策開始 WebShield Appliance(McAfee)
2010年3月	メールサーバ更新 Express5800/R120a		Email and Web Security(McAfee)	Email and Web Security(McAfee)

【スパム対策の内訳と、検知したウイルス数】



<MLの一覧を掲載した所内ホームページ>

<情報交換掲示板>

【メールシステムの更新とスムーズな移行のための工夫】

- (1) アナウンスの工夫
- (2) 資料作成の工夫
- (3) 移行の工夫
- (4) ユーザ同士の情報交換の工夫

(1) 読みたくなるような件名例 :
『メール・ネットワークについて～ある日突然メールが使えなくなるかも！？～』
『【全員対象】2010年2月メールサーバが新しくなります！』

- (2) ・説明資料はシンプルに
・情報を詰め込みすぎない
・図入りで説明(設定方法等)
- (3) 旧メールサーバと新メールサーバの並行期間を設け、この期間中に新メールサーバの設定テストを各自で実施
- (4) 情報交換掲示板に設定変更事例を掲載
Microsoft Outlook2007, 2003, Outlook Express6.0, WindowsMail6.0, Becky! ver2, Thunderbird3.0, 2.0, 1.0, Shuriken2010, Mac Eudora6.2J, MacMail1.3, 4.2など、多種多様のメーラの情報が掲載され、情報交換を行うことができた。

【結論】

- ・大規模なシステム更新であったが、目玉のメールサーバ移行に関して、全ユーザの協力のもと、比較的混乱無くスムーズに移行ができた
- ・システム更新は作業も多く、ユーザへのアナウンスや説明資料の作成などは後回しになってしまいがちだが、今回心がけたように、ユーザとしての立場から見てわかりやすい資料の作成や、地道なアナウンスや説明によって、ユーザの理解と協力を得られたのが、成功の要因の一つだと考えている。今後もユーザにわかりやすいシステム運用を心掛けていきたいと思う。